

水俣湾の実

態を調査

水俣漁協の補償問題は二十日夜おそく中村市長を委員長とするあつせん委員に委せることを漁協、新日窒側双方とも了承、二十一日午前九時から新日窒側池田同社常務、川村同上場庶務課長ら、あつせん委員側中村委員長を始め深水、長野、小柳同各副委員長ら約九人が漁民の先導で水俣川大橋から乗船、ドベ（汚悪水による海底の沈んでん物）など水俣湾内汚染漁場の実態調査を午後一時ごろまで行なった。

このあと委員らは市役所で漁協

側から補償額などについて要望をきいた。

同委員は二十二日は工場側の意向をきき、双方の意向をもちより妥協点を見出そうというものだが、問題はこんなお残されたものが多く、あつせん委員に対する双方の協力はもちろん同委員の努力を各方面から期待されている。